

行岡病院の院是 理念 基本方針について

- 【院是】 協同
 【理念】 やさしい医療を実践します
 【基本方針】 心身両面からの医療を目指します
 患者様の権利を守ります
 わかりやすい説明をします
 学術性豊かな医療を展開します
 継続した医療を行います
 地域の健康づくりに貢献します



(注釈)

- * 院是の「協同」については、当院の設立者である行岡忠雄博士が、今からおよそ70年以上も前に示された設立趣意に基づいたものであります。すなわち、「医療は医師のみの力でなしうるものではない。多くの医療技術者との協同の上に成り立つものなのだ。」との強い意志から、脈々と受け継がれてきた当院の大きな財産であります。
- * 「やさしい医療」とは、患者様が安心して医療を受けて頂くこと、であります。

病院からのご案内

リウマチクリニック待合室の改修工事を行いました。

当院2階リウマチクリニックは、リウマチ患者様を対象とした専門外来です。クリニックには、遠方からお越しになる患者様も多く、診察までの待ち時間も長い状況でした。

患者様からは「椅子が固く、座りにくい。」「テレビもなく、待っている時間が長く感じられる。」とのご意見が寄せられていました。

このため、今年3月にリウマチクリニック待合室の改修工事を実施しました。



リウマチクリニック

工事終了後は、待合室は見違えるように明るくなり、椅子もリウマチ患者様にとって座りやすいものを特注の上、設置しました。また、中待合の壁も撤去し、大型テレビも設置することにより、待ち時間の苦痛軽減を行いました。

今後とも療養環境の整備については、順次実行する予定です。

編集後記

初代 行岡 忠雄理事長が残して下さった“協同”の2文字。行岡病院並びに学園70余年の歴史を通して今なお息づくこの貴重な言葉。おりしもサッカーのワールドカップがドイツで開催され、世界のスーパープレーヤーの妙技に驚きと感動に期待がふくらむ一方、テレビ等では個人プレーのそれ以上に組織力、戦術を重要視する意識が高い。

4年後のワールドカップの開催時、病院、学園がどのようなピッチに立っているか。まさに“協同”が問われる時が今、始まった。(編集委員 H. F. M. T.)

ひこばえ

Vol.19

—ゆきおかニュース—

行岡病院・行岡学園 広報部 大阪市北区浮田2-2-3 TEL: 6371-9921(代)
 行岡病院 <http://www.yukioka.or.jp/> 行岡学園 <http://www.yukioka.ac.jp/>



病院機能評価 ver. 5

行岡病院 副院長 島岡 康則

この年になると・・・といっても私自身、若いのか、老けているのかわかりませんが、「試験」「受験」「テスト」「面接」なんて言葉とは無縁、できれば避けて通りたい、いや絶対嫌だ、憂鬱だ、と思ってしまいます。まして行岡病院の創立は、昭和9年ですから、今年で、すでに72歳。いままさ試験なんて、とんでもないという話です。

ところが世の流れは、これを許してくれず、ついに今年平成18年5月に、病院にとっての、とんでもなく難しい試験「病院機能評価 ver.5」を受けることになったのです。その内容は多岐に渡り、「理念」「倫理」「人権」「患者権利」にはじまり、「経営方針」「予算計画」「雇用基準」、「組織」また「職員教育」「教育方針」、またまた「安全管理」「施設基準」「職員マニュアル」「患者マニュアル」「看護マニュアル」「疾患マニュアル」・・・などなど、考えられることは、すべて求められ、しかもこれが、「わかりやすく明文化され、周知徹底され、実践されている。」ことが要求される、というとんでもない試験なのです。

準備が進むにつれ、約30もの委員会が招集され、たくさんの委員長が任命され、とんでもない量の資料やマニュアルができあがっていきました。当初は、資料やマニュアル作成が、おっくうでおっくうで、「あ〜嫌だ、嫌だ。」と思っていたのですが、意外(!?)なことに、院長、

副院長、各科部長、看護部、事務職員のみならず、これをスイスイ(そうでもなかったかなあ〜??)とこなしていけるのにはびっくりでした。一番大変だったのは、これらのことが「周知徹底され、実践されている。」という評価を受けるにはどうしたら良いかということだったように思います。

「病院機能評価」を受けてみての感想は、「つまり大人の病院になりなさい。」ってことかな、と感じています。「病院機能評価」の求めていることがすべて正しいわけでもないですし、合理的でもない部分もたくさん含まれていますが、少なくとも、「病院、職員、患者」が、「安心し、安全に、そして、お互い向上しあって」進んでいく道は示されているように思います。

スペイン、バルセロナにあるサグダラ・ファミリア聖堂は、1882年に着工、未だ工事中で完成は200年後といわれているそうです。「行岡病院機能評価」も、一度で完成するなんて思っていないかもしれませんが、200年間継続していけば、きっと世界一の病院になっていくことは、間違いなく信じています。



療養環境の整備について

行岡病院 薬剤師 安藤 圭一

去る5月18～20日に行われた病院機能評価を機に、寄せられた様々な意見を元に療養環境整備委員会では研修会や業務改善等を行ってまいりました。ここではその一部をご紹介します。

- ① 職員に対する接遇ビデオ研修 ② 携帯電話使用スペースの設置
③ 2階フロアの飲食コーナーの設置 ④ 外来総合案内、意見箱の設置

今回はあわただしく経過していき大変だった部分も多くありましたが、各部署、職員に問題意識が生まれ、短期間で予想以上の改善結果を得られたことをうれしく思います。

よりよい病院を目指して新たな一步を踏み出したわけですが、この努力を個々で積み重ねることで莫大な力となると信じて、職員一同日々研鑽していく所存です。

新着任(4月)医師の一言

歯科医師 岩脇 康人

この度、平成18年4月に大阪歯科大学、欠損歯列補綴咬合学講座から行岡病院、歯科口腔外科に赴任してまいりました。行岡病院の職員の方々には暖かく迎え入れていただきましたことを感謝いたします。

既に2ヶ月の月日が経ちましたが、歯科医師として果たすべき責任の重さを感じつつ、そこから多くの事を学ばせていただいています。今後、歯科治療の質の向上に努めていきたいと考えています。

歯科医師 橋本 祐加

この度、本年4月から大阪歯科大学口腔外科第二講座より行岡病院歯科口腔外科に勤務することとなりました。大学病院ではたくさんの先輩医員に囲まれ、何かあれば頼ることができる環境でしたが、今は一人で解決していかなければいけません。全身疾患のある患者さん、交通事故後の患者さんなど様々な方が来られます。

患者さんの訴えに対して困惑することもあります。患者さんひとりひとりと向き合い、患者さんが納得し喜んで頂ける医療を目指し、努力していきたいと思っています。

院内情報

- 1月4日(水) 仕事始め、互礼会
○2月17日(金) 創立記念日及び平成17年度永年勤続表彰式
勤続30年1名、勤続25年1名、勤続20年1名、勤続15年5名、勤続10年8名、勤続5年16名、合計32名
以上の方が表彰されました。今後さらに病院のために、活躍されることを期待致します。
○デイ・ケア行事 2月3日(金) 豆まき
3月3日(金) ひなまつり
この他、4月にはお花見、5月には端午の節句、と行事を行いました。
○3月16日(木) 慰霊祭
平成17年1月～12月 病院内でご逝去された患者様(約100名)に対する慰霊を目的とした式典を行いました。ご遺族の方々及び職員が参列致しました。

○4月1日(土) 入職式



勤務につかれました。

- 4月26日(水) 自衛消防(自主)訓練
寮生を対象とした火災発生時の初期消火、特に消火器を使用した消火訓練及び消火栓の取り扱い説明と模擬消火訓練を実施しました。あわせて、夜間の病院火災時の応援体制の任務の説明を行いました。
○5月18日(木)・19日(金)・20日(土) 医療機能評価機構による審査

学園と合同による入職式を開催しました。行岡病院新入職28名の方は、決意も新たに新しい職場で

学園掲示板

新入学生が見聞したリハビリテーションと理学療法の社会的側面

行岡リハビリテーション専門学校 副校長 武富 由雄

平成18年5月25日から27日まで、第41回日本理学療法学会が群馬県前橋市のグリーンドームで開催、約4千人の参加者があった。

行岡リハビリテーション専門学校からは「新入学生からみた理学療法の社会性」と題して発表した。1983年に「調査からみた理学療法の社会性」を臨床理学療法誌(10:277-284)に発表、以来22年の間に、社会が理学療法についてどの程度認識されているかを探索するために本校の新入学生(平成17年度)76名を対象に調査した。

前回と今回の調査結果を比較、検討したところ、理学療法的手段に関して運動療法に重点が置かれていた。出身地での“リハビリ”のことばと“リハビリ医療”の実践状況についてはほぼ社会的に認識されていた。リハビリ医療の一翼を担おうとしている新入学生は理学療法を一生の仕事・医療職として“志”をたてるまでに社会性を帯びる傾向が本調査から示唆された。

『CPR&AEDインストラクター養成講習会』に参加して

行岡鍼灸専門学校 専任教員 河合 稔弘

先日、東洋療法学校協会が主催する心肺蘇生法&自動除細動器インストラクター養成講習会に参加する機会がありました。

その講習会は2日間の日程で行われ、1日目は実際に人形を使って心肺蘇生法の練習から、自動除細動器の使用法と一次救命処置の一連の流れを座学と実技実習で教わり、2日目は救急現場に必要な基礎知識を学び、各自テーマ別に調べてきた学習内容のプレゼンテーションを行い、最後に講習を行う時に必要な救命処置の実演を受講者全員で行いました。今回の講習で、心停止状態が5分続いただけで、生存率が極端に低くなることを再認識し、あらためて現場で行う一次救命処置の重要性を感じました。このような機会を与えて頂いた事に感謝し今後の学校教育の中でCPRやAEDの必要性や使用方法などを学生に伝えていきたいと思っています。

学園情報

- 1月10日(火) 仕事始め
○2月17日(金) 平成17年度永年勤続表彰式
(行岡病院4階多目的ホール)
勤続30年1名、10年4名、5年1名 計6名の先生方が表彰されました。この経験を活かし学生のために、学園のために、更なるご活躍を期待致します。
○3月4日(土) 卒業式



<午前の部>
歯科衛生科44名、看護第1学科35名、看護第2学科43名、鍼灸科昼間部50名・夜間部46名

<午後の部> 放射線科昼間部46名・夜間部37名、臨床検査科昼間部37名・夜間部30名、整復科昼間部57名・夜間部59名、理学療法学科昼間部44名・夜間部37名 8学科総数 565名の学生が、それぞれの専門の医療職へ旅立って行きました。

- 4月1日(土) 入職式
病院と合同による入職式が午前11時より開催されました。理事長行岡正雄先生挨拶後、各科専任教員4名と事務1名に辞令が交付された。
○4月10日(月) 入学式
桜満開の茨木校舎講堂で平成18年度の入学式が挙行されました。
行岡保健衛生学園8学科へ377名の学生を迎えました。新入生は、学校長・ご来賓の祝辞などで自己の目標と希望達成に強く決意と決意をしたでしょう。